

黒を着て重ねし齡鳥雲に

藤田湘子

私の短歌の師、塚本邦雄は白を着ていた。

白は潔癖を表す。オシヤレの最たるものだろう。しかし、全身を白で包む衣装の美しさを維持する難しさは、着てみればすぐ解る。よほど金銭にゆとりがなければできらるものではない。

黒は許容を表す。あらゆるものを受け入れる。太陽光線の全てを吸収して反射しなければ暗黒、ブラックホールとなる。湘子先生は「来る者拒まず、去る者追わず」であった。鷹俳句会の方針は「俳句のあらゆる可能性を追求する」であり、作者の個性を大切にしていた。

鷹二十周年俳句大会、帝国ホテルで黒のベルベットスーツを纏った湘子の顔は実に嬉しそうに輝いていた。

1984年(昭和59年)第十一句集『去来の花』 鑑賞・轍郁摩